

滋賀県内企業動向調査 特別アンケート
 ～設備投資動向について～
2016年度の設備投資は若干増加の見通し

【調査趣旨】

当社では県内の景気動向を多面的に捉えるため、重要な指標となる「設備投資動向」について、2015年度より年に一度アンケート調査を実施している。今年度も「滋賀県内企業動向調査(2016年1-3月期)」の特別項目として調査を行った。

【調査概要】

- ・調査名：「滋賀県内企業動向調査(特別アンケート)」
- ・調査時期：2016年2月8日～26日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 935社
- ・有効回答数：153社(有効回答率16%) うち製造業73社、非製造業80社

【調査結果の要旨】

1. 設備投資額は若干増加の見通し(表1)

- ・15年度、16年度の設備投資額について、金額の回答があった153社の合計額についてみると、15年度の着地見込みは133億8,700万円となった。16年度の計画は134億8,200万円(15年度対比+0.7%)と、若干増加する見通しとなった。

2. 中小・零細企業で下落幅が大きくなる傾向(表2)

- ・「1社当たりの投資額」を資本金別(5区分)にみると、15年度の着地見込みは8,700万円、16年度の計画は8,800万円と、100万円のプラス(+0.7%)若干増加となる見込み。企業規模が大きくなるにつれて投資額は上がる傾向にあり、資本金が「5,000万円超」から全体を上回る投資額となった。15年度は「1億円超～3億円以下」「3億円超」では1社当たりの投資額が2億円を超える結果となった。

3. 増額理由は「老朽化・更新期の到来」が7割を占める(図1)

- ・16年度の設備投資を前年度から「増額する」と回答した企業に理由をたずねたところ、「既存設備の老朽化、更新期の到来」が最多の71.5%となり7割を超える結果となった。次いで、「生産性向上への対応」(48.2%)、「新規事業対応・新製品開発」(23.4%)、「省エネ・環境対応」(20.4%)が続いた。

4. 減額理由は「投資の一巡、前年度の投資額の影響」が5割を占める(図2)

- ・16年度の設備投資を前年度から「減額する」と回答した企業に理由をたずねたところ、「投資の一巡、前年度の投資増の影響」が51.8%と5割に達した。

5. 「自己資金」による手堅い投資志向が増加(図3)

- ・設備投資にかかる資金調達方法についてたずねたところ、「自己資金」が7割弱と大勢を占め、製造業では7割を超えた。全体の15年度の自己資金投入割合は66.5%、16年度は68.2%と、さらに自己資金の割合が高まる見込みである。非製造業では借入金の割合が約3割となった。

6. 「補助金制度の拡大」が最多

- ・設備投資に関して期待する施策についてたずねたところ、「補助金制度の拡大」が61.2%と、6割を超えた。次いで、「設備投資減税の拡大」(49.3%)、「法人税率の引き下げ」(44.9%)が続いた。

以上

本調査に関するお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター

産業・市場調査部 長山 (077-523-2245)

1. 若干増加の見通し。製造業は増加し、非製造業は減少

15年度、16年度の設備投資額について、金額の回答があった153社の合計額についてみると、15年度の着地見込みは133億8,700万円となった。16年度の計画は134億8,200万円（15年度対比+0.7%）と、若干増加する見通しとなった。

業種別では、製造業の15年度の投資額は78億3,600万円、16年度の計画は85億3,100万円（+8.9%）となり、全体に比べ大きく増加する見込みとなった。窯業・土石（+116.7%）、繊維（+60.6%）等で大幅なプラスになる一方、非鉄金属（-60.3）、金属製品（-41.7）等で大幅なマイナスが見込まれている。

非製造業は、15年度が55億5,100万円、16年度の計画は49億5,100万円（-10.8%）と、1割を超える減少幅となる見込みである。建設（+73.6%）で大幅なプラスになったものの、運輸・通信（-48.3%）、卸売（-46.5%）等でのマイナスが全体を押し下げた。

表1 設備投資動向

（単位：百万円、%）

業種※1	回答社数	15年度 見込	16年度 計画	増減額	増減率
全体	153	13,387	13,482	95	0.7
製造業	73	7,836	8,531	694	8.9
繊維	11	884	1,420	536	60.6
木材・木製品	4	32	42	10	31.0
化学	7	269	368	99	36.8
窯業・土石	4	675	1,463	788	116.7
非鉄金属	4	1,277	507	-770	-60.3
食料品	4	95	122	27	28.2
金属製品	5	471	275	-197	-41.7
一般機械	10	1,333	1,017	-317	-23.7
輸送用機械	7	1,810	2,501	691	38.2
その他製造	17	989	817	-173	-17.5
非製造業	80	5,551	4,951	-600	-10.8
建設	20	873	1,515	642	73.6
不動産	4	68	59	-9	-12.7
卸売	14	1,515	811	-704	-46.5
小売	9	681	779	98	14.4
運輸・通信	12	490	253	-236	-48.3
サービス	18	1,866	1,464	-401	-21.5
その他非製造	3	60	70	10	16.8

（※1）回答数が3社以下の6業種（製造業：紙・パルプ、鉄鋼、電気機械、非製造業：電気・ガス）については、その他の製造業・非製造業にまとめた。

（※2）合計は円単位で計算後、百万円未満を四捨五入して表示しているため、表内の計算において一致しない場合がある。

2. 中小・零細企業で下落幅が大きくなる傾向

「1社当たりの投資額」を資本金別（5区分）にみると、15年度の着地見込みは8,700万円、16年度の計画は8,800万円と、100万円のプラス（+0.7%）で若干増加となる見込み。企業規模が大きくなるにつれて投資額は上がる傾向にあり、資本金が「5,000万円超」から全体平均を上回る投資額となった。15年度は「1億円超～3億円以下」「3億円超」では1社当たりの投資額が2億円を超える結果となった。

増減率をみると、「1億円超～3億円以下」「3億円超」では増加する見込みで、「3億円超」では6割近い増加幅となった。一方、「1,000万円以下、個人」「1,000万円超～5,000万円以下」では2割近い減少幅となる見込みである。資本金規模が小さいほど下落幅が大きくなる傾向があり、中小・零細企業の慎重な投資スタンスがみてとれる結果となった。

表2 1社当たりの投資額 (単位: 百万円、%)

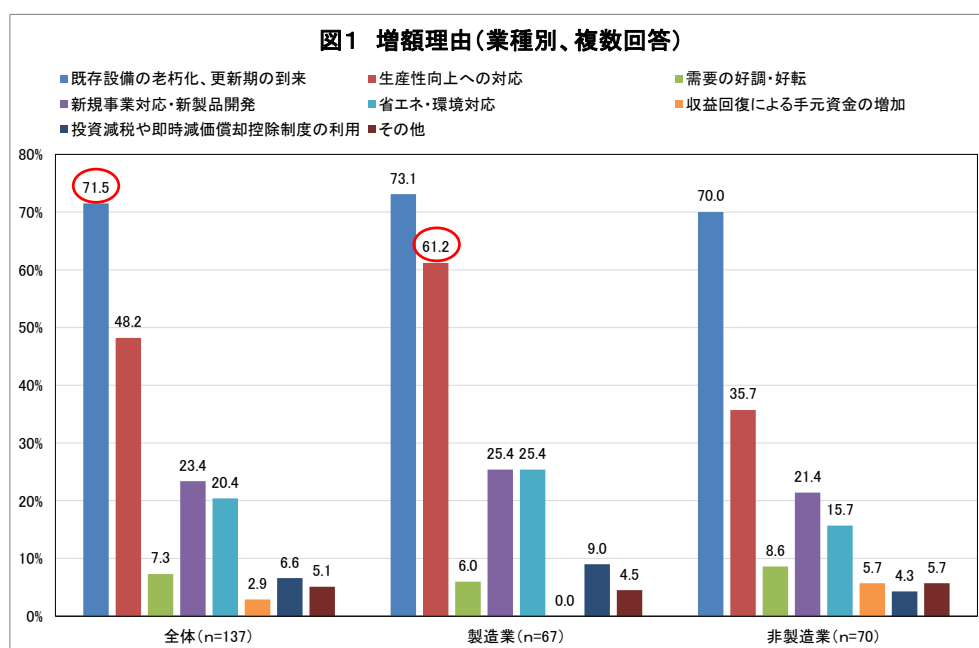
資本金区分	回答社数	15年度見込	16年度計画	増減額	増減率
全体	153	87	88	1	0.7
1,000万円以下、個人	30	24	19	-4	-18.4
1,000万円超～5,000万円以下	77	63	52	-11	-17.9
5,000万円超～1億円以下	31	136	129	-7	-5.3
1億円超～3億円以下	7	269	315	45	16.7
3億円超	8	214	339	125	58.4

(※1) 合計は円単位で計算後、百万円未満を四捨五入して表示しているため、表内の計算において一致しない場合がある。

3. 増額理由は「老朽化・更新期の到来」が7割を占める

16年度の設備投資を前年度から「増額する」と回答した企業に理由をたずねたところ、「既存設備の老朽化、更新期の到来」が最多の71.5%となり7割を超える結果となった。次いで、「生産性向上への対応」(48.2%)、「新規事業対応・新製品開発」(23.4%)、「省エネ・環境対応」(20.4%)が続いた。

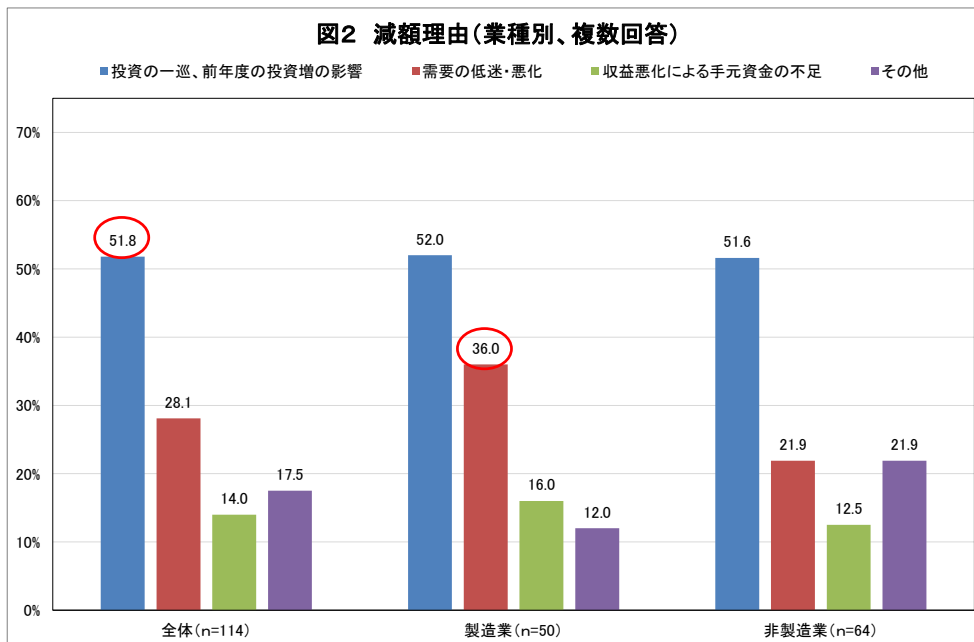
業種別の特徴をみると、製造業では「生産性向上への対応」が61.2%と全体平均を大きく上回った。前年調査時（15年2月）の48.2%から10ポイント以上の増加である。逆に「需要の好調・好転」(7.3%)は前年の29.6%から20ポイント以上減少した。非製造業は主な項目で全体平均を下回っており、「需要の好調・好転」(8.6%)、「収益回復による手元資金の増加」(5.7%)が全体をやや上回った。



4. 減額理由は「投資の一巡、前年度の投資額の影響」が5割を占める

16年度の設備投資を前年度から「減額する」と回答した企業に理由をたずねたところ、「投資の一巡、前年度の投資増の影響」が51.8%と5割に達した。次いで「需要の低迷・悪化」(28.1%)、「その他」(17.5%)、「収益悪化による手元資金の不足」(14.0%)と続いた。

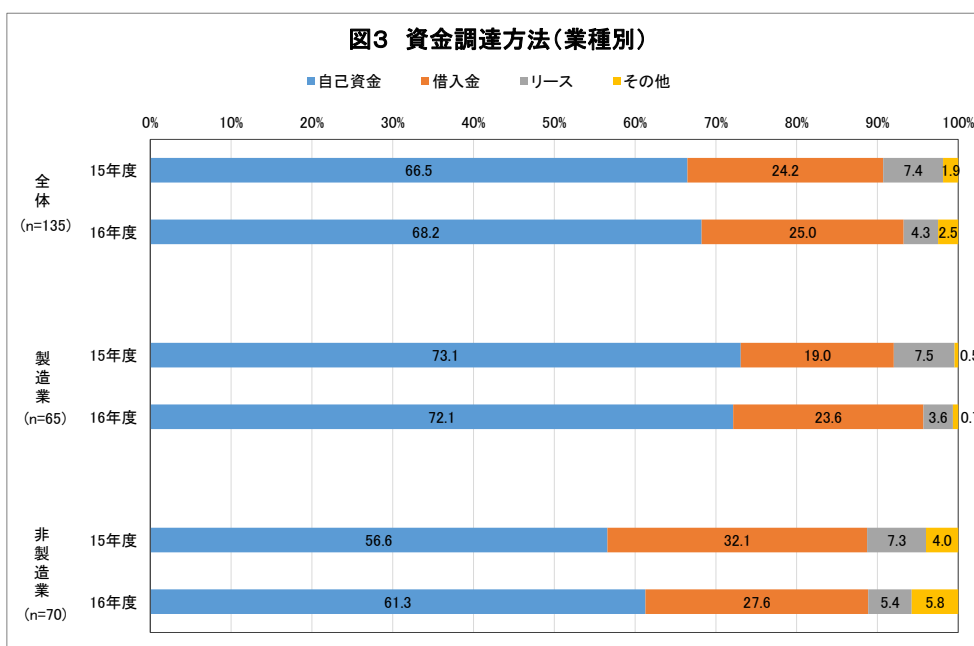
業種別にみると、製造業では「需要の低迷・悪化」(36.0%)が全体平均(28.1%)を上回り、非製造業では「その他」を除く全ての項目で全体平均を下回った。



5. 「自己資金」による手堅い投資志向が増加

設備投資にかかる資金調達方法についてたずねたところ、全体では「自己資金」が7割弱と大勢を占めた。15年度の66.5%から16年度は68.2%と、さらに自己資金の割合が高まる見込みである。

製造業では15年度、16年度ともに「自己資金」が7割を超えた。「借入金」(15年度:19.0%、16年度:23.6%)の16年度割合が+4.6ポイントとやや増加する見通し。非製造業では「借入金」の割合が約3割に上ったものの、対15年度では-4.5ポイントと減少の見通しである。

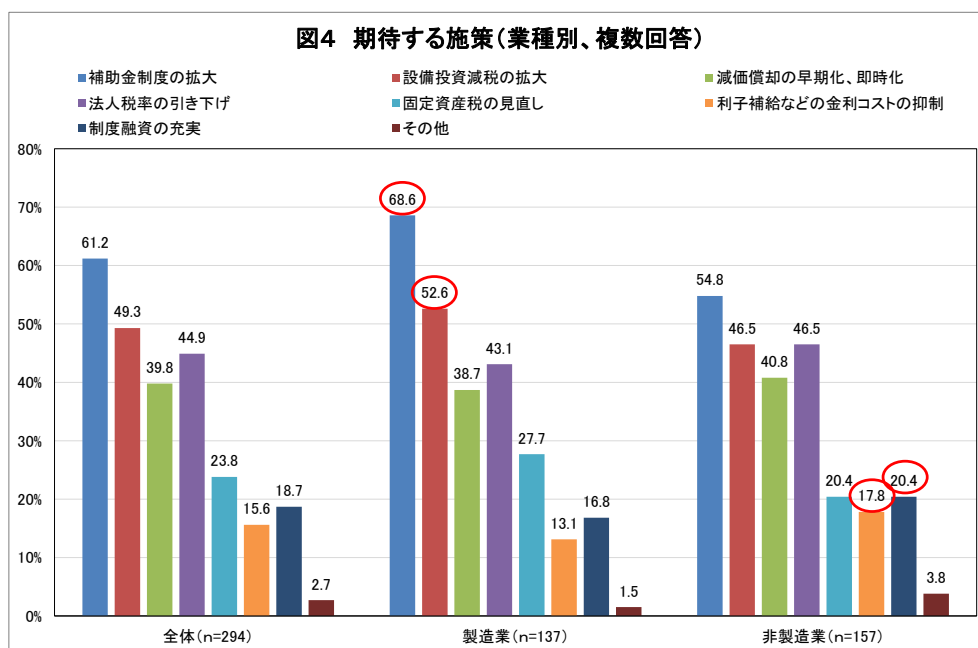


6. 「補助金制度の拡大」が最多

設備投資に関して期待する施策についてたずねたところ、「補助金制度の拡大」が61.2%と、6割を超えた。次いで、「設備投資減税の拡大」(49.3%)、「法人税率の引き下げ」(44.9%)が続いた。

業種別に特徴をみると、製造業では「補助金制度の拡大」(68.6%)が7割近くに上り、また、「設備投資減税の拡大」(52.6%)が5割を超えた。

一方、非製造業では「補助金制度の拡大」(54.8%)が製造業と10ポイント以上の差が開いた。「制度融資の充実」(20.4%)、「利子補給などの金利コストの抑制」(17.8%)等の金融面を意識した回答が全体平均を上回った。



7. 設備投資に関する自由回答

大業種	中業種	記載内容
製造業	木材・木製品	環境に合わせて投資したい。
	化学	何らかの補助金制度を利用して、既存設備の更新を行いたい。
		設備老朽化による買い替え時期が到来。必然性のあるもの以外はなるべく投資は行わない。
	窯業・土石	生産設備の維持、改良、改善を続ける。 需要動向と新製品の立ち上がりを見ながら随時対応。
	非鉄金属	長期間投資を抑えてきたため、同業他社に後れを取っていた。早急に取り戻す必要があるので、状況にもよるが毎年投資を行っていく予定。
	金属製品	消費税増税前の投資。
	一般機械	増産に対しては、効率化を中心に対応するため、投資は更新をメインに進める(ただし、小手先の修繕ではなく、大幅な改善、改造、新規入替)。
		設備老朽化等の対策は必要に応じて行う。新規事業に関連する場合も投資は行う。
	輸送用機械	必要最小限の投資にとどめる。外注可能なものは外注で。
		業況が良くなく、必要最低限の設備更新をしばらくは続ける予定。
その他の製造	2016年は補助金制度の活用を予定している。	
	適正最小の設備投資は力量の範囲で行いつつ経営の安定化を計る。また、土地・建物等は万一にも転用がきくように心掛ける。	
	老朽設備のタイムリーな更新。労働負荷低減や生産性向上への投資。	
	開発業務の製造を行っているため、技術進歩に伴い設備投資は今後も必要と考えている。	
非製造業	建設	当社所有の不動産(準工業地域)に賃貸工場、倉庫等の建設により、収益事業と考えている。
		土地・建物を取得するような大型投資は当面考えていない。
		当社の規模では大きすぎる設備投資となるが、地域工務店が家を建てる「箱の産業」から住まい方を提案する「暮らしの産業」に変わるための設備投資と考えている。地域の特性を活かしたエネルギーへのシフトや暮らしを具体的に表現し発信できる拠点づくり。
		大型の設備投資はあまりなく、道具具類の更新が多い。将来工場の移転をしたいが良い条件の物件が見つからない。
		ソフトウェアの負担が多くなってきている。優遇税制のPRと利用の仕方を知る機会を得たい。
		太陽光発電システムの買い取り価格や年数が平成27年度と同条件ならば投資を継続していく。
		工場設備の老朽化及び生産性向上の為の投資は必要に応じて実施していく。新規事業への投資については有望市場を見いだせない状況にある。
	短期的に修理が増大すると思われる機械の更新。長期的に事業を支える設備への投資。	
	建設用機械等は自社にて所有なし。営業用車輛、事務機器の更新が主にリース利用。	
	卸売	現状、会社の業況は変わらないが、建物が老朽化したためと、効率化を計るうえで必要と判断して決定。
時短につき従業員、直帰型営業システム等で業績アップと新規店の拡販を目指す。		
人材育成と設備投資を最重要課題として、今後も取り組んでいく。		
小売	設備更新時期で再投資、効率化、新規事業への投資。	
	当社は中小企業であり、設備についてはまだまだ不十分のため、長期的視点で投資する必要あり。自己資金でまかなえる範囲で投資する。	
運輸・通信	良い出店物件があれば出店する。	
	今回10トントラックを購入。効率化をはかる意味で今後も導入していく方針。	
サービス	車の購入は注文して1年近くかかるのでなかなかタイミングがつかめない。	
	老朽化設備、施設の更新。	
	補助金制度についてメーカーからの説明等があまり実施されていない。	
	石油組合の助成制度を利用して設備を投資した。いろいろ利用できるのが出てきたら利用したい。	
サービス	2025年問題対策としての医療計画(第6次)に基づき、回復期リハビリテーション病棟の充実への機能分散化を推進する。	
	診療報酬の増額、患者数の増大のためには、医療機器を中心とした(投資効果が期待できる)設備投資が継続的に必要。	

以上